
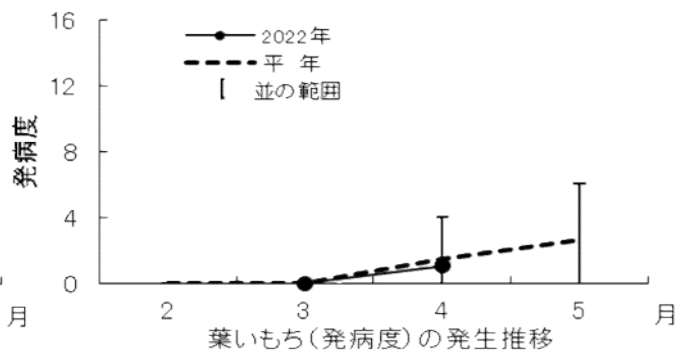
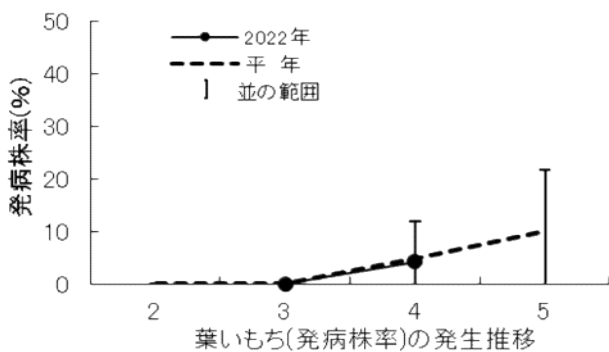


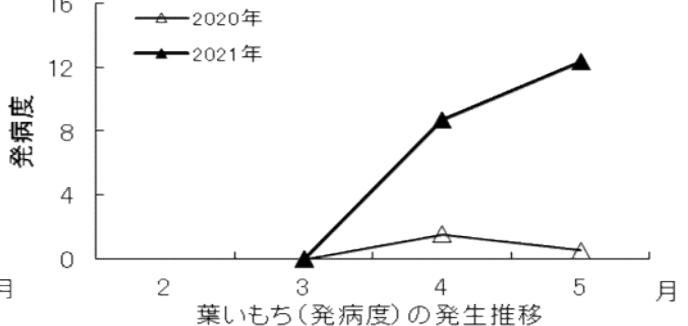
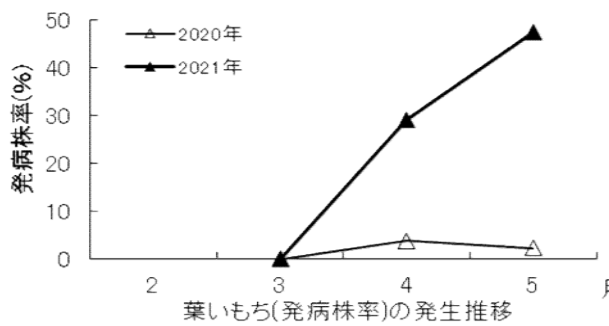
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① 葉いもち病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：31% (平年値：33%)

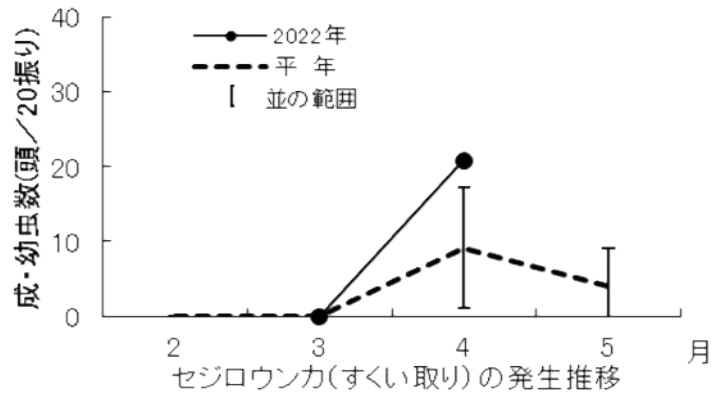
防除のポイント

- ・窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。
- ・穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・発生の多い地域では、共同防除を行う。
- ・収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

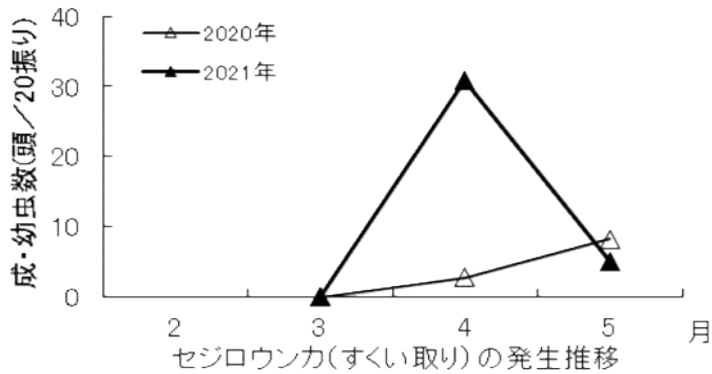
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② セジロウンカ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：88% (平年：67%)

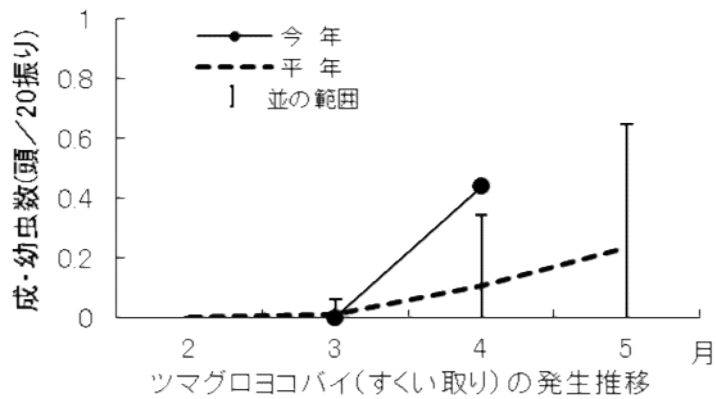
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

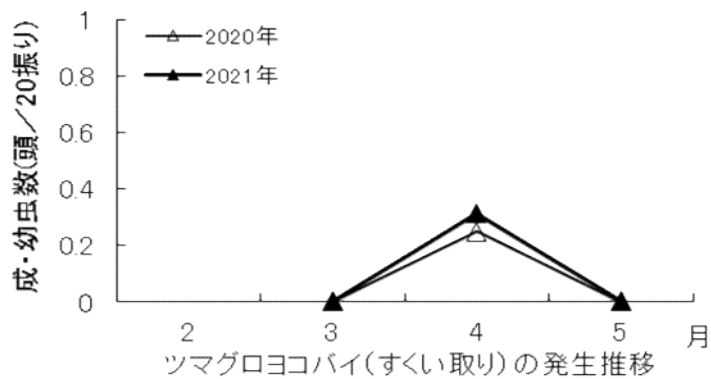
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ ツマグロヨコバイ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：38% (平年値：7%)

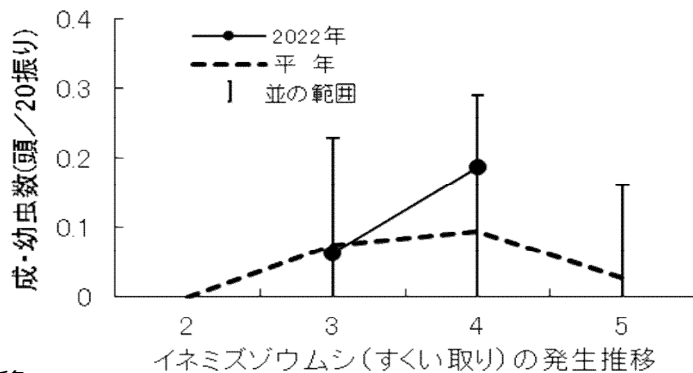
防除のポイント

- ・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

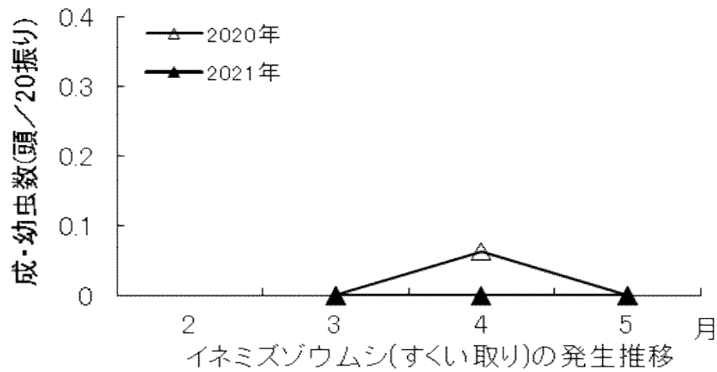
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	④ イネミズゾウムシ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↘	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：19% (平年値：7%)

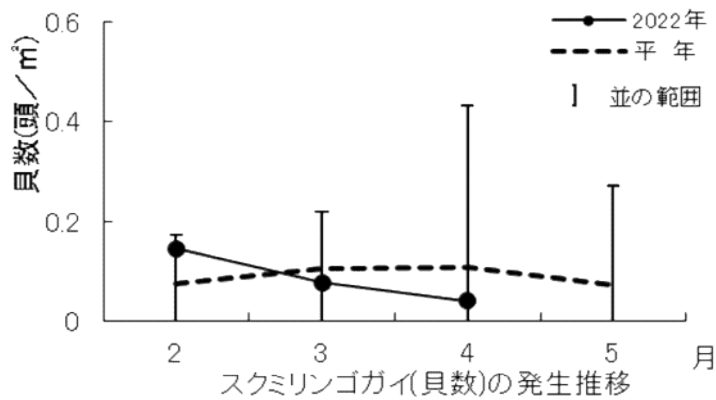
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。

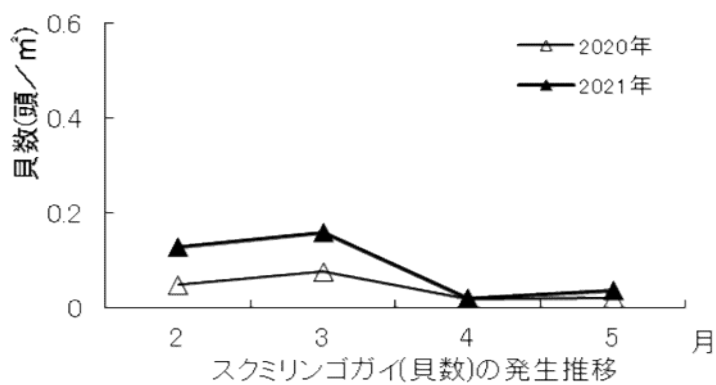
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ スクミリンゴガイ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生ほ場率：31% (平年値：18%)

防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。